

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 JAPAN

畫本西遊全傳

九編



2500
40-29



門入還214
號ス500
卷40-29

池

泊

あらしよふうききはんをんのく
僧本西遊記二編卷之九

岳亭丘山譯

ぎうじやへんきのうをとこひ
行者施爲寔化能

長庚傳報鹿頭狼
一時秋之初節小當而一座の大山小至る其高き要天と尋く松柏日
上覆ひ巖石崎々路阻挾して藏心中小怕とぞと 徒弟未能々心と
用ひよ。曰バ行者曰老子孫光景を見届えろべと頃て虛空小乘
升と前面遙か眺る處小忽ち雲端小大白金星現ひりと行者^ハそ
進と侍て李長庚何國小去りと問金星答て曰く哉今此山小姑
庵有叟を大聖小告んと思ひ能たら爰小未少しるう。此山行程八百里
獅駝嶺と号く山中小獅駝洞と云る有爰小二個の妖庵有他小都
て神通廣大ゆくて部下小四万八千の小妖有大聖十分心を盡すと寔
化の妙と存れり若此亦小ても怠慢ありが晉ば爰と遇がこうらん行

者見を聞再拜し頃て入止生小別と告口雲を下すと三藏自此由と報
三藏泪を流すと曰く斯の如く難難多く思度して以地を巡何の日
山もふ至つて仏を拜る古文を得や行者いたく金星這樣と告ると
雖の官渡五六分の虚言有ん日八戒沙僧の爰か在て師父を護て侍
き人我嶺み登て伺ひ来んと又雲か跨て飛去々く少時有て行者雲
き下を脇見か勿心ち山の背後小叮當叮當と鎗の音聞えて一側の小
妖怪一桿の今字を書くる旗を捧げ腰か鎗を著て出来まう行者是と
見て思やう他官渡山廻りの小妖うぐべー我他と數數きて妖魔が消息
を問へと急ぎ雲より樹蔭か下て一個の小妖と対面他と同き旗を擔
げ鎗を帶出来まう彼小妖み行會をを小妖見咎めて曰く你も何里
より来る的ぞ行者笑ひて曰く你却て一家内の者を認得ざらや小妖

曰く我城中ふ女を見ざと志慶認得んや行者曰く女認得ざるゝの理
う我今ヤド焼火的を勒居故平日ふ女と會更より小妖頭を打
擣て我家の焼火的ふ原女を見ざと日我大主家庄嚴燒火的と常ふ
火を焼山巡りハ常小山を巡る既ふ燒火的とテ亦出で山を廻る者也
行者曰く備へ你亦知ばや大王我怠慢う燒火的を勒へと見ぬ
ひ當般陞と巡山とうへり小好曰く我們巡山的一班每小四十名
あり十班俱小四百名大王より個々ふ牌を與へて號とテの你某方牌
あつや行者曰く我怎生牌うん然も當般新牌を領へとまふをり又
とも定て牌有べて瘞出と我ふ看よ我ゆ又你ふ見せん小好就ち衣服
を掲げ一個の金依牌児を取出すて正面小威鎮諸魔と四箇の
金字有て背ふ小鏡外に三箇の真字とゆ行者見を見て備へ巡山



的の都て風の字を下ふ。附るまんと手と腰の間へ指を一根の毫毛と抜金陵牌兎と対す。背ふ大鑽風の三箇の文字を露へ取出して看タモを小姓へいふ。驚き我亦都て小鑽風と名を呼ふ。忘麿你一個方鑽風とりよや行者曰く大王既か我と廬山的ふ陞ゆき此新牌を賜つて。鑽風と号て。你们一班の四十名を司どらへ。必ず小姓是と同て急ぎ拜とて。曰く長官儲の新小職を蒙りて。我安貞の長官の面を知ば當下の無礼を許す。我一班の鑽風等皆南嶺の下にあり。我快く去て。他們ふ報ド。僕ん長官慢々奉うて。嶺の那邊へ跑つて。去行者小姓が言ふ。徑ひ南嶺の下に至り。果的一班の小鑽風姿小在て。個々身を屈て出迎へ。長官ふ拜謁に行者見て急み。嚴頭ふ登て。座を定衆鑽風が對と呼りて曰く。豈田殿方王新お

我を大鑽風み陞すゆひ謂ひ今下你ふみ説詰ん耳定ふ間へ近頃お
王東寺より来る唐僧を吃んと思ひてども孫悟空とりてお徒弟
神通廣大ゆゑ能変化と作と聞然を彼悟空万一小鑽風の像み
寔ド汝おが中み交う居て洞中の消息と伺ひ有んも計りづ一此故
小哉と大鑽風み陞し你等が群黨中と直勘せりありの我今汝等
み向まつまを答ざる的ハ假鑽風ゆき招行てお王み訴へば你们
真の鑽風ふ相違うまを兼てお王の手列ハ知べ且速ふ是と答よ
此時一個め小奸進と出て曰く我等が能大王の手列と知つてお王
を神通廣大ゆゑ能変化と云ふ自身を現し一度口を開きゆく其
廣き更城門のどく一口ふ十万大兵を呑み一大王を臘蛟竜の
とく餌令鎧背銅盾の人うとも一度甚方白毬み巻ろく時も終ゆ命

生先ひきり行者曰く似ら言ひとく相違う。你の眞方の鑑風よりて假
鎮風み非に亦一個の小姑上前出て曰く我も又眞也べ。某次之三
大王是へ却て凡間の人ふ非ば雲程万里鵬と號しより能九万里を
飛行。又一件の宝貝あり陰陽二氣瓶と号く。倘此瓶中の人を裝
へば半時の間に化盡て血水とうるう行者是を聞て心中も思ひ
娘虎が手列怕るふ不足。唯此宝貝の瓶と怖えりと暗ふ驚きる
がら色ゆり出でて曰く你が言處違ど。你の假鎮風み有に又一個の
小姑進て出て曰く當般大王唐僧を吃んと田心立す。ども一大王二
大王の却て是を要めり。二大王強て彼と要めり。亦一個の
小姑上前出て曰く二大王原此地の人ふ有ば五百年前此西四百
里萬つ御馳國ふます彼國の君臣百姓盡く食盡て因てかの城地

を奪ひ居住す。大王延頃唐僧より一個の聖僧を西天へ遣す。經
と求ると傳聞。彼聖僧は十並修行の好くみて其肉を食ふ者ひ不
老長生を得と聞他と招へども他が往す。孫行者神通廣く
ううと聞て一個の力み及本ざれを爰ふまつて兩個の大王と血縁を結
び力を合せて唐僧を金んをあひ。行者曰く似等う。言ひて二
大王曰く先大王か此由を報じ亦まつて查勘と爲ん。御山を廻
て逢て嵩の小姑たり。小姑喜行者と列立。一里計り過行處。山ふ
者勿心ち鉛棒を抱出。小姑を打殺に然て此小姑が像ふ。復鑄
を擔へ。鉛と著御馳洞ふ尋む。行々ふ果て一座の洞門あり。門前
か詩文の小姑的群し居て行者大まう。見て小鑑風歟。

快く入て大王を見へよとらひ行者應と一色應へ直小門内に入前回
を看やと堂上み三個の妖魔並び座而邊か幾百の小妖伺候
て個々甲冑を帶へ鎗矛と把威風凛々と殺氣騰々行者
些へも怕れぬ遂小堂下ゆきて行を三個の妖魔向て曰く你山を過
つと唐僧の消息を伺ひて行者曰く唐僧のまご伺ひ得ば却て
孫悟空と伺ひ未だ老魔曰く你怎麼と孫行者と伺ひて
や行者が曰く彼東嶺の那邊か一個の和尚洞の上ふ蹲つて鉄棒
を磨き居つるが如き像同路神のどう立自身と起さむ十丈の長有
べし彼鉄棒も又挽程の粗細あり他只管口裡ふ独言を聞ふ我此
鐵棒之く神通と頭さば今是と磨て洞中ふ入三個の大王と打殺
一方王の皮を剥二大王の骨と剝二大王の筋を抽假令門を開く

ぐとく我若蟬兒と寢て門の縫裏より潛り入他等を拒へ殺さんと
云つて我見は小伏て孫行者うそ吏と悟候金毛庵鬼と聞て一身汗を流
し両個の妖魔と對して曰く你おきり哉曾て孫行者うそ勇と聞
及ひて果的斯の如く却て我們と討んと他ス蒼蠅兒か寢て未
んと云我此洞中往昔より是蠅兒生下づる更に若蠅兒のまろを見
を仰半力と用ひて拿ゆべ一管に遁ほ更まことに行者是を聞く
躊躇ひ身を退き密か一根の毫毛を拔して蒼蠅兒寢て老魔の臉
く拿へようと呼うつゝ個々第と把刃と振り小妖ホウ一斉か蓋板
取て床あつて下へてこうと懸き蠅兒一隻を懸動するゆゑ行者好參
堪へうけて覓と吸々と啖ひたゞ勿れち我直ちの臉を笑ひ出しあは



寅正んとさう間ふ彼ニ魔王百夜く是を冒險急行者と扯扱へ
老鬼小向ひ大哥々々是を見り人這廝則ち孫行者う想ふ這廝
うの小鏡扇と打殺一却て其の捲様か寔じて奉者と引倒一他道
魔を初め衆部の小妖ども一齊ふ立めり遂小行者と引倒一他道
魔と知故ふ縛と以て縛ぐる陰陽二氣瓶の中ゆ嵌入て化一縛を
みの如トとて小姑等ゆ命じ陰陽瓶と取出さをぐらば此瓶終ふ
二尺四寸の長さをも二十六個と用ひざむべ勧と呉能と此故
ふ三十六個の小妖彼ニ氣瓶と拵出一瓶の口と行者ゆ向の瓶
中ふ仙氣あつて搜的行者と吸へたりニ魔赤倚て蓋と單ひ既ふ
孫悟空を招きて唐僧の自然と我們の口裡の物うりと急ぎ歡喜
の酒宴と催イタ

心猿鎖透陰陽體

魔主還歸大道真

行者の瓶中ゆ裝入らむ身を小少寝ド少時蹲すと居たり處ふ忽
然とて四面都て火燄とる二條の火龍出来て行者う上下に
盤遙る行者則ち咒語と唱へ避火詠の印と結び氣と住て座ク
ども衝々火勢甚しく掻揚の肉已ふ和ぎ乍毛行者心中ゆ曉得
て斯の如くろくぶ衝々不掻揚う化盡て陽と成づ此裡ふ化一死
を師父と佐せて西天ふ行支能に万年の功業一日ふ空くうの口
惜きとと覺むと泪を流りて涙が勿忙ち前年蛇盤山みて觀音菩薩の
救命毫と賜ヨリ更を思ひ出し脇後と搜と見とぞ果然硬き毛
三根あり行者憐く遂ふ是を抜下一根を鋼鎖と寔一根の竹片
と寔一根を綿を綿繩と宣うさせ竹を張りとすと彼鋼鎖を以て

底ふ向ひ穿鑽（くわら）一孔を直（ただ）め一箇の孔を穿（う）透（とお）て火勢（ほせい）此孔漏（もろ）出（で）て冷氣（れいき）を生（う）て行者たちの唯喜二根の毛を絶（き）て頸項（けいこう）と
喉嚨（ののせん）と出（だ）ぬる鑽（くわら）と出（だ）ぬる門外ふ飛行本相（ほんじょう）を現（あらわ）す二藏曰く你久く
於（お）へ駆返（かかへ）り師父々々女魔（めまつり）と伺（うなが）ひ来（くわら）うとりへ在（ざら）二藏曰く你久く
飯（はん）らば我深（ふか）く愁（うき)ひう山中怎麼（どう）する女怪（めまつり）ありや行者則ち小鑽（くわら）而
み衰（あせ）てふ古（こう）衣（きぬ）の裡（うち）み装入（はりこ）らむ辛（から）うど身を脱（ぬぐ）ひ飯（はん）を語
り彼三個の女魔甚手強（じゆきょう）く数万の小女魔（こめまつり）あり我一個他と戦（たたか）ひ
し今八戒（はつげ）を領（うけ）し再度那裏（たうど）み行（ゆく）べど人々を八戒是（あれ）が從（まつ）ひ両個とも
雲（くも）ふ跨（くわ）りきつて獅馳洞（じちどう）の門前（もんぜん）か至（いた）り行者高く呼（よ）りて女魔（めまつり）と
出來（で）つて孫悟空（そんごくう）手列（て�）を見（み）と叫（さけ）び立（たつ）て門を守（まつ）る小女魔（こめまつり）と大
王（おう）み此由（うり）を報（たま）せ二個の女魔見（み）と聞（き）てたりめ驚（おどろき）き彼行者當（あらわ）め

陽瓶（ようへい）の中（なか）み装入（はりこ）らむと今（いま）の程（ほど）化盡（かじん）て水と成（な）らんと思ひ（おも）ひよ其他
怎處（なんぶ）して抜出（ぬきだし）けんと怪（けい）と急（いそ）に陰陽瓶（えんようへい）の右處（うぢ）み至（いた）る彼瓶（かれい）の蓋（ふた）を把
て裡（うち）を覗（のぞ）き悟空（ごくう）の在（あつ）る部（ぶ）て底（そこ）み一箇の孔を穿（う）透（とお）て備（そな）の悟空此孔
より鑽（くわら）と出（だ）て覺え（おぼ）る者（もの）ども這廝（いつき）太示何（なん）と孔を穿（う）如何（いかん）と
此（この）小き孔（あな）と出（だ）み乍（ひつ）と日（ひ）怪（けい）と日（ひ）驚（おどろき）き忙然（わいぜん）とて立（たつ）て處（ところ）み行者門
外（ほか）ふ在（あつ）て万般（ばんぱん）と罵（ののき）とうるふぞ老魔（らうまつり）忿然（ふんぜん）とてを謂（い）て曰（い）く我等（われら）正方
路上（じゆじゆ）ふ在（あつ）てハ武勇（ぶゆう）の名（めい）あり今日孫行者ふ僕謾譏（ぼくまんげ）と他と敵（あわせ）する者
無（な）んを名（な）を千歳（せんさい）の未（み）耻（はず）一也（いっしやく）て命を捨て戰（たたか）りんふ何（なん）ぞ怕（おそ）うと
有（あ）んと刀を把（つか）て門外ふ跳（とお）と出（だ）呼（よ）つて曰（い）く孫行者我言（ごんげん）を同（あわせ）我軍兵
を出（だ）し你と相（あわせ）ひる更安（さらやす）と雖（まことに）も然（しか）うてハ你我手列（て�）と知變（ちへん）事（こと）ト我今
你と戰（たたか）ひ快（こころ）く雌雄（しゆう）を度（とお）まへて行者笑（わら）て曰（い）く怕（おそ）くも你一個我小對

まろ支那ド官に逃る支うとと兩個遂あ手を交へ五六合戦ひ
くる時八戒堪へうひて師兄我代づく突止んと釘鉗を把て跑出せ
老鹿二個ふ敵一難く忽ち本相を現へ一個の青獅と成口と聞
八戒を呑んとほ八戒たりふ驚き頭を回して逃出せ行者の却て真
面、上前より鉄棒を身小收め彼獅の口裡へ處入り八戒顎を見
て行者を心三喰強馬温の死生知らず却て他づ口ふ入へ何故ぞ明日
の晉びた恭と寢じて出るうとんと独言急いで舊路ふ逃返せ
三藏ハ汝僧と僕ふ兩個み歸るを待りか處へ八戒喘呻的跑まれ
を三藏驚ひと曰く八戒怎麼狼狽々般アラヤ悟空は未だ寝ど
や八戒曰く师兄ハ姑怪ゆ一口小呑ミ我一個唐を脱せぬりく
藏是を嘆て方心ち動と地ふ例シ悟セテ你よく姑怪を憲澤段と思ひく
ふ

今日却て姑怪の手小死ア痛ベレと色を放て笑ひハ戒師父を勸解
んとおせば少和尙快く行李と聞け悟淨曰く二兄行李と聞りく何
と出まや八戒曰く行李と六分ち取て個々別々小去ん你も流沙河立帰
せ我も高老莊往て我渾家の向と看白馬を賣て師父の棺を買
葬送の準備を爲ベニ戒是を聞て更小心を傷け天ふ哭た地ふ伏て只
管哭きて在りたに却説獅駝洞の姑怪ハ行者と一口小呑終て洞中ふ立
て曰く我孫行者を拿へ妻也と呼て名を二鹿懽喜で曰く長兄耶而
ふ拿置ひと老鹿曰く我他を一口小呑今我腹中又有二鹿大是驚
之光あき
をして大哥たちのみ過ち立て孫行者と吃しと食え中から行者肚裏に
在て曰く我と立て吏たりあゆ我食べて不在此肚裡の臍脇と食ん小
女聞て不好々行者大王の肚裡而在て説話とこ怕じて老鹿曰く

我手列在て他を呑むを出でと那ぞ怕ひん誰も在ゆる塩湯と取ま
也肚ふ准て他と吐出へ煮熟して酒の瓶とせん小女頭て塩白湯を把ま
て大王ふ棒ぐ老鹿是を取て吃盡へ喫を罔く吐ク多云行者取て出
ば老鹿沒奈何て孫行者你怎度出来らざるやと云ば行者肚裡より呑て
曰く你甚ぞ不通寔う我出家人原衣腹す今秋涼の時節我尚草
の直裰を着ぬ此肚の裡暖ゆて周を透さば冬を過て後出べし衆女是
を聞て這虜大王の肚の裡ふて冬を過さんとりか怎麼して善ん老鹿
曰く他冬を過さんとせを我座禪とす搬運の法を行ひ一冬飯を食ひ粥
馬温を餓死せむ行者曰你猶世事を知ぬ我廣東より過まう一個の
摺疊と鍋とを持て入るを你が五臟腸を取難碎小煮て食せを未春ま
ひに之から老鹿小姑の命どく菓酒を取来せ你半怕り更るを我今

以菓酒と飲這虜と苦め殺をべと連ふ七八鍾を飲るを行者酒杏を得て此酒を他ふ飲せどと頭と喇叭の口ふ袁ド他ぐ噪喧の下ふ受て
酒と盡く行者ぐロへ吸取る老鹿鍾子を下ふ置不正や此酒平日を
終ふ二鍾を飲べ肚裡火の如くうふ今七八鍾を飲ぐの些くも醉ざる
そ何故うんと口へ管ふ怪ミタ行者原来酒量高きに近今七八鍾を連
飲ふくもを勿寧ちふ大醉へ肚の裡ふて舞踊アヒ成て轍轍壁蜻蜓翻頭
只言嗚呼と絶へくも最時有て行者些く醉醒手足を止て定てクニ
を老鹿衝く摸生苦氣るに巴ふと大忘大悲奈天大聖南無孫行者
悟空菩薩万望我を助けりと呼うこく行者曰く你外様小禱を貴ひ
ぞうほ唯孫外公と唱へば老鹿是を聞又呼つて曰く外公外公万望



慈悲と無事我一命と饒くまし我今唐師父を送りて此山を退きて活命の恩を報じ奉る行者曰く我亦大命と饒さず你怎麼して師父を送るや老庵曰く我原金銀珠玉の贈ろべきと我半兄弟二個一乗の轎見を擔て師父を駕て送り候ん行者打笑ひ轎見を以て師父を送るが金銀と贈よ尚勝ざら你口を開け我出去んとく老庵急ぎ口を開け此時二庵走りあう老庵が耳ふ口を開け我出でんと老庵急ぎ出る時歯を咬合せく這廝を咬殺りへとりふ行者肚の裡ふる忍ち唔々先金箍棒を出でと説みけりあ老庵黙して咬合せ鉄棒ふ噛的く却て門牙を碎きたり

心神居舍庵歸性

木女同隆怪體真

其時行者怒て曰く你我と數きて咬殺へどに我再度出でと鉄棒

を抽回り老庵三庵を死心で曰く是却て你が過う今怎麼して他を出さんや二庵曰く長兄死心を失ひ更るも我計り吉有とて高士也不呼つて曰く孫行者耳定小間你づ名を聞エ雷の東く如く南天門小て威を現エ靈宵殿かく勢ひを震ひ今又西方路上小有て妖を降す怪を拿す古今無双の英雄と思ひ小却て一個の小輩の猴見なり行者曰く你何と云て我を小輩と云ふや二庵曰く你若出来とて我と賭鬪を爲本真大の英雄と稱さべ那ぞ人の肚の裡潛隱と我們を怕ひて出まらば小輩を云ふて抑何ぞや行者是を聞いて思ひやう他が言ひ理う我若出で在を実ふ名を失ひとと思ひ答て曰く你既に我と賭鬪を求んとて我今出行べと唯洞内窄く益機を運ぶ不宜廣き處小出で我出るを待べ二庵則ち許若の小女と領一門外小陣を列ぬ二

卷之九

三

鹿老鹿を佐けて門を出孫行者出来て此處場廣へ快く勝負を考せよと呼とをを行者又思やう他亦反覆計がくに左右計畧をもつて他を苦め快く師父を送らむふ如じと數十根の毫毛を拔四十丈計の太縄と対して奸猾な心の臓を緊ぎかけ縄の尾を手取て咽下ふ至りし亦思やう若口より出るを以て縄を咬断どんの計り難く歯の牙死處より出へと上脣より鼻の孔を階つて出をを老鹿勿心ち一色噴嚏をきく行者へ遂に逆奔出則ち一手ふ彼縄を扯一手ふ鉄棒を取り急小雲ふ飛升ると力を極めて縄を扯を老鹿又初て疼を覚え乃ふ向ひて釣揚らる行者又地ふ下を横み縄を引を老鹿肩車の輪若く空中より滾び落行者ふ後ひそ牽せ行ニ鹿三鹿是を見てたりふ驚き一齋ふ縄ふ縄落して曰く大聖爺々の海量の神仙と田心ひくふれくあやめり罪過うう今慈悲を以て命を饒一ありて曾に老師父を送り奉ん行者然べ你手刀を拿て縄を割て帰りさを老鹿が曰く外の縄を割と雖も心中ふ残つて仕て處怎麼せん行者曰く你未既ふ師父を送んと云甚言偽と無や老鹿曰く縄を解て給らば則ち送り忽ち消て老鹿初て疼痛を脱ひ衆好方家并礼大聖旦帰りて我等頃て轎見を以て脚迎へふ參るべくとて兵を收めど右縄を奉ん更に偽て宣示へまじて行者頃て身を搖うて毛を收めど右縄をうち消て老鹿初て疼痛を脱ひ衆好方家并礼大聖旦帰りて我等頃て轎見を以て脚迎へふ參るべくとて兵を收めど洞中ふ飯を乞行者も身を回して乞い師父の許ふ飯を乞ふ三藏の尚地ふ倒れ

只八戒哭て在り沙僧身邊すゑ左さ佐さ居ゐ沙さ行者ぎ來きるを
見て二藏ちう八戒はつと歎たん喝かて曰いく你お車くる人ひとを怡いた悟空悟曾そて死死ざさるを
你お却かて死死きてとりと那里な下さう来る者ものハ誰だぞだや八戒はつ曰いく我わ明めいめいふ他ほか
妖精よう小吞の見み思おもふ他ほか師父し念ねんを残のこく魂まを回まわす
幽靈ゆう此こ時とき行者ぎ廻まわす是い古古又またと聞き八戒はつ顔ほを打うて曰いく我わ忘わす
塵じん幽靈ゆう見み思おもふ他ほか師父し念ねんを残のこく魂まを回まわす
他ほか疼いたみ苦く再な二二命めいと饒じやうさむんと是いふ依よて他ほかと饒じやう當とう今いま輪わ
兒こ以ひて師父しを送おる此こ山さんを過くわりめんとほ二藏ちう是い聞きて曰い驚おどろ且また
惟い喜うれ悟ご空くうりふ你おを勞なぐ我わ今いま再生せいの心こころ地ぢせうと手てを拍たたて悟ご
びゆゆ却か說い那な妖精よう亦よ既きふ洞どう中なか小こ飯めしと一一虎こ老お虎こ小こ對むかと曰いく我わ
本ほん孫そ行ぎ者しを九く頭とう八はつ臂へい三さん身みの大だい漢かん見み思おもひひふ却かて五ご門もんふ口くぬ

小猴こうう我わ此こ洞どう中なか幾いく万まんの部ぶ下さ哩りを吐ぬてと他ほか一個いつの陽よう殺さくく當とう
長な兄えの命めいを救すくん爲ため他ほかよ歎たん吸き飯めしと雖まも真ま實じ實じ他ほかを送おるおんや長な兄え
我わみ二に千せんの軍ぐん兵へい兵へい兵へい音おん行ぎ者しを招まるまー老お虎こ是い聞き
奈な何なんも你おがゆふ任あたふと云いふ二二虎こ大だいりふ歡かん喜うれ見み三さんの小こ妓ぎを點てん
ド經くわふ洞どう門もんを出でて山さんを下さつと大だい路じを餘のて陣じを列はねは一個いつのの小こ妓ぎ前まを出で
我わ二二大だい王おう爰ゑふ在ゐ孫そ行ぎ者し快こく出でて雌め雄ゆを決けつせよよと呼ようう八はつ戒かい量りょうを
見みううりふ笑わらひ師し兄え妖よう虎こを降お下さ轎こ見みを以ひて師し父しを送おると云いふのおの却か
て亦よ戰たたかひを求もる那なぞぞ行ぎ者し曰いく老お虎こ既きふ我わ八はつ戒かいららと敵てきて出で
む定じめて彼かれ二二虎こ我わ業わざを送おすと願ねがひままで戰たたかひを要いるより
ん我わ思おもふ此こ妖よう精せい兄え弟い三さん個こく這な様ようふ義氣ぎきありある我們われも亦よ兄え弟い三さん個こく
我わ既きふ老お虎こを降お下さ八はつ戒かい曰いく我わ那なぞぞ他ほか

怕さんや。日一他と拿まんと釣鉈を取て山崖あ跑登りし密奸怪病へ出来て我手列を見よと呼マタシハ二鹿方りみ怒ア鎗と剣手と距走り。兩個崖上ふ在て相戦ひ。赤十合ふ至らざるふハ戒既か力疲リ。首を轉じて逃んとすと二鹿快く自異と伸て捲住む衆妨擡と鯨波あげ。洞中へ扯回タリニ藏遙み是を見て悟た。快く他を救へと曰ひ。タヒト。行者笑て曰く。師父も甚偏かう。我携らせて。時此にて。念が懸り。度他一度拉へらる。却て這樣。小慌得。何ぞや。ニ藏曰く。你。が携らせと我何んぞ念ふ。縣守さんや思つ。小你ハ能変化を。管だ身を破る。小至り。他の生得愚う。好藉。手を脱。の智。你快く救ひま。行者則ち雲ふ。駕空中を。勢。思ひ。彼歎子我と死うと。阳ひ。自。苦。をさせて。然。と。後故。と。一個の雌螢虫と。変ド。洞裡か。走行ひ。

不便や。八戒手脚と拴縛。後園の池の中へ侵入。寢び。行者見ゆ。前日沙僧が説話か。他私房銀を價。持つて云う。不知那處小匿して置こうや。且他と。嚇。驚て取出せんと。則ち八戒。耳の際。飛行。怕醜氣。き。色を作。猪悞姑々々と呼。名を八戒怪と。曰く。我法名。呼。誰。誰。行者曰く。我冥途の使。五焰王の命を受。你と迎。あまう。八戒。大。驚。曰く。長官旦飯ア。と。五間王。奏。モ。五間王。我師兄。孫悟空と。甚好。教。師兄の面。爰て。一両日を待て。給。頗て。好藉。木。師父を控へ。未。時。師父と。同。小往。僕。行者曰く。五間王。己。小室。二更死と。住定置。我方便を以て。一日を延引。但。我今。外の處。ふ。往て。你。代。別人を伴ひ。飯。と思へ。お。盤纏。持。今。腹中。餓。你。定。盤纏。有。些。我。小無。八戒。曰く。我。



是出家人怎度盤纏有んや別人ふ向て要めりへ行者曰く汝已小般盤纏
ヨリ我外ふ行支能ば然在你ふ縄を掛て扯取るゝハ戒脱得て長官且
縄上出ゆるみ長官の索ハ追命縄と云て是を掛けを則ち息絶ると
聞ク我此等年上積未置る襯錢四五錢耳の裡ふ有我今網うむシ手
を動かす能ハズ長官親手取出ゆる行者則ち他づ耳の裡を搜引を
果而四五錢の銀子あり行者是を取出堪えハタゞく笑ひ出一一本
相を現すけむハ戒是を見て天殺的の弼馬温今以困苦の場處
そ人の銀子を傷つ奪ふやと牙を咬て罵り立行者打矣ハ戰ひ口アラシせ
立アラシ我且你づ命を故んと鉗棒を掣て他を池より挑げ出一縛を
と解放てば八戒惟喜行者と俱ふ洞門小跑て出門の一邊小釘鉗の
捨て有々と尋取て門を出んとさう處を許支の小妓是を見引道

さと追走す兩個釘鉗を廻て捧を震ひ當るを憲候打鉗遂小門
外かまつて出づ二魔是を聞て大に怒り第を掣て門外を追走
足行者と當時戦ひるが如きも本相を現して鼻を伸て行者を捲りと
前を倚て行者の双手を捧を横へ却て他の腰を捲せ鉗棒を鼻の
孔へ突入金比二魔曉得たり小驚き鼻を伸せ退かんと引く行者
遂小鼻柱を摑て頭を向ひて扯下せ二魔疼之甚きと行者小股
ひ牽ひ行ハ戒の後う釘鉗の柄を以て他を打兩個の象奴を見と
く師父の處小牽飯三藏是を見て徒弟ふ且他を傷う事無き
氣を殺すと迷つて山を遁るを命と饑と飢せよと曰へモ二魔地を
躰下と曰く唐聖僧若くぐ命を饑へり管に轎鬼を以て山を
遁きや奉ん更小寢改致をばく行者曰く我們師徒は俱く慈悲

を最重事とて、然を仰ぐ言ふ後にて命を饑へ返すべし。這般倘變改さ
ば再度命を饑へしと遂に放ちて歸りたる二魔の師徒に向ひて
拜謝し急ぎ洞中より覗坂と有り更ども仔細語りて怎麼のせんと議
しき。ども衆好個々默然と一言を出で者もなし。其時二魔上前出
て我一個の謀計あり管だ唐僧と並んで謀計の次第に遠揚々々
と仔細示教を老魔二魔たり。惟怡き寝姑の命じて頃の
轎兒を擔げて三個の妖魔へ附添て二藏の處小到り。當下送り奉
うべと一個々跪下て云々。かぞニ藏の謀計とい夢み。知れ。遂に轎兒
み座り。行者八戒沙僧等の後。附添三個の妖魔先に上前崖上
に登りて急ぎつゝ一日一夜か四百余里の道を過已。小獅駕國の城地
に至り。時二魔忽ち方天戟を舉て孫行者を刺し。孫行者を心ふ

身を轉て鉄棒を振て相戦ふ。老魔八戒ふ砍て懸り。二魔沙僧め打
てかる。八戒沙僧釘钯を拳。宝杖と廻り。個々勇と震つゝ戦ひる
兼て計りて更に轎兒を擔ぐる。小姫ども走び如く小城門へ至
り。門を開けと呼んで。門を開りて許度の小姫群り出。二藏と城
主へ迎へ入。甚餘の小姫半身。白馬と率行本子を擔い。個々城中へ入
ゆ。二個の侍女。小星を知じ。口。官戦ひ居りたる。八戒早く力廢せ
身を回して逃んと。老魔直に口を開ひ。八戒と咬止め。城中少
し。沙僧と。沙僧は。城中へ。扯回り。行者の両個の師弟が。沙僧へらまく。見
飛入。小姫。半身。と呼んで。細縛きを置く。又出来りて。二魔と接けて。戦ひ終ゆ
沙僧と。沙僧は。城中へ。扯回り。行者の両個の師弟が。沙僧へらまく。を見
て。急いで。雲小駕て脱。と。二魔本相と現。翔と伸て。走上。原ま
行者。沙僧は。筋斗雲一度放つて。十方八千里と去と離ゆ。此二魔が翔一度

梶を九万里と飛二度梶を十八万里と去り以ひ勿忙ち此中ふ在て追
及終ひ行者と極抵し飛回て城中ふ入へゆく

汎清

繪本西遊記三編卷之九早



